

高齢糖尿病透析患者における DPP-4 阻害薬リナグリプチンの有用性 - 皮下連続式グルコース測定 (CGM) による評価 -

長崎腎病院

○安藤佐知子 山中真樹子 丸山祐子 宮崎健一 李 義明 橋口純一郎
江藤りか 原田孝司 船越 哲

【背景】

DPP-4 阻害薬は単剤では低血糖を生じにくく、厳格な血糖コントロールより安全性や QOL が優先される高齢者・認知症患者への適応が期待される。

【目的】

インスリン治療中の高齢糖尿病透析患者において、インスリンから DPP-4 阻害薬リナグリプチン切り替えにより、血糖管理の改善を試みる。

【対象および方法】

当院でインスリン治療を受けている高齢透析患者 3 名（男性 3 例、69-84 歳、透析歴 2.8-4 年）において、患者のみならず家族（キーパーソン）への十分な説明と同意を得た上でリナグリプチンに切り替え、在宅での血糖コントロールを試みた。

【結果】

4 例全例においてリナグリプチン 5mg への切り替えが安全に行われ、在宅管理が可能となった。

【考察】

DPP-4 阻害薬は、インスリン注射が必要であるために在宅管理が困難な患者において、在宅へ移行する手段の一つとなり得ると考える。